世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

MUSE CONCERTS PICK UP

ドビュッシー、ラヴェル、プーランク、メシアンの名曲がてんこ盛り

超一流の名手たちが大集結

11月15日に所沢ミューズで開催する『フランス室内楽のエスプリ』。有名曲がなく、一見地味なプログラムだが、なかなか生演奏で聴く機会のないフランスの傑作がズラリと揃い、ヨーロッパで今まさに目覚ましい活動を繰りひろげる超一流の名手４人が集結する。

主役はなんと言ってもコンサートの最初から出ずっぱりのピアノ＝河村尚子だ。1986年に幼くしてドイツに渡ると、現地で音楽教育を受け、世界最難関と評されるミュンヘン国際コンクール（評価が厳しいうえ、課題曲がやたら多い！）で第２位を獲得、さらにクララ・ハスキル国際コンクールでも優勝し世界の注目を集めるようになる。それがきっかけで日本音楽界でも火がつき、一気に評価を獲得した言わば「逆輸入」のピアニストだ。リサイタル、協奏曲は言うまでもなく、ヨーロッパでは室内楽の分野での信頼が厚く、弦楽器、木管楽器、ピアノ五重奏など、まさに引っ張りダコの状態。今回のフランスの室内楽でも共演回数の多い気心が知れた仲間がつどい、親密で色鮮やかな音楽を聴かせてくれるはずだ。

もう一人の日本の星＝佐藤俊介は所沢ミューズではすでに知られた存在。「バッハ：無伴奏」「パガニーニ：24のカプリース」、また河村尚子とのデュオで絶賛を博している。現在、古楽オケの最高峰、コンチェルト・ケルン及びオランダ・バッハ・ソサイエティ管のコンサートマスターを兼任し、帰国する暇もないほど多忙なスケジュールをこなしている。しかし。元々パリの名伯楽ジェラール・プーレのもとで４年間学んだ経歴の持ち主だけに、フランス音楽への情熱は並々ならぬものがあり経験も豊富。ラヴェルとメシアンで研ぎ澄まされた響きを聴かせてくれるだろう。

つづく

世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

MUSE CONCERTS PICK UP

出逢いはミュンヘン国際コンクール

対するヨーロッパ勢ふたりも物凄いキャリアと実力を誇る。現在、ドイツ屈指の名門オケ、シュトゥットガルト放送響の首席クラリネット奏者を務め、名だたる名指揮者たちから絶対的な信頼を得ているセバスチャン・マンツ。河村尚子と同じくミュンヘン国際コンクールに、マンツは2008年に挑戦。なんと40年間にわたり第1位を出さなかったクラリネット部門で優勝（60年を超える歴史の中で優勝はたった 3 人だけ！）。同時に聴衆賞、特別賞なども総なめにして22歳の若で歴史に名を刻むことになる。以来、ヨーロッパで最も注目を集めるソリストとして、バイエルン放送響、ミュンヘン響、ニュルンベルク響など名門オケと共演。室内楽奏者としてもマインツ、ハイデルベルク、ラインガウなどの音楽祭に常連として出演し、ダニエラ・コッホ、ヴェロニカ・エーベッレ、ラモン・オルテガ・ケロなど超一流のソリスト達と共演を重ねている。

チェロのウルリッヒ・ヴィッテラーもまた室内楽奏者として輝かしいキャリアを築きあげている。クレメンス・ハーゲン、パトリック・ガロワ、フレディ・ケンプ、河村尚子などのトップ・ソリストと共演。

日本でもよく知られるシューベルティアーデ音楽祭、ルツェルン音楽祭にも頻繁に出演している。もともと若い頃から、ジェモー弦楽四重奏団を結成しチェロ奏者として活躍し、室内楽に情熱を傾けてきた。そのジェモー弦楽四重奏団は、同じく 2008 年のミュンヘン国際コンクールで 3 位に入賞するなどマンツとは旧知の仲だ。2013年には、日本でもお馴染のジョナサン・ノットが長く率いる（首席指揮者のポスト）ドイツ屈指の名門バンベルク響の首席チェロ奏者に就任。近年はバーゼル響やミュンヘン室内管と共演して、ソリストとしても注目を浴びるなど破竹の活躍を続けている。